

みんな違ってみんないい

校長 鈴木 隆志

◆「くじけないで」

東京国際フォーラム・相田みつを美術館で開催中の「詩人・柴田トヨの世界展」に出かけました。柴田トヨさんはもうすぐ100歳です。昨年、詩集『くじけないで』がベストセラーになりました。光っ子たちにも、トヨさんの詩を紹介したことがあります。展覧会場に、トヨさんから東日本大震災被災者の皆様に宛てたメッセージがありました。被災者の皆様、どうか、くじけずに!!

あぁ なんといい
ことでしょう
テレビを見ながら
唯 手をあわすばかりです
皆様の心の中は
今も余震がきて
傷痕がさらに
深くなっていると思います
その傷痕に
薬を塗ってあげたい
人間誰しもの気持ちです
私も出来ることは
ないだろうか？ 考えます
もうすぐ百歳になる私
天国に行く日も
近いでしょう
その時は 陽射しとなり
そよ風になって
皆様を応援します
これから 辛い日々が
続くでしょうが
朝はかならず やってきます
くじけないで！

◆「みんな違ってみんないい」

「同調圧力」という言葉があります。集団の中で多数派に合わせることを強いる空気のことです。「みんながそう思っているんだから、あなたもそれに従え」という論理です。「KY（空気が読めない）」という流行語も、同調圧力の表れです。

子供の世界でも大人の世界でも、同調圧力を感じることはありませんか。誰しも、他者に対して自分と同じものを見出したときは、心地よい安定感を感じるものでしょう。それが、仲良し同士、好きな者同士という関係につながって、一層同調圧力を強めていきます。そして、仲間外れを恐れて、空気を読みながら話を合わせ、「好きな子グループ」に身を置くようになるのです。

しかし、自分を安全な場所に置くことが、自分と違う者を排除することにつながってしまうのは、とても危険なことです。いじめや仲間外れは、許しがたい同調圧力なのです。いじめをなくすには、違いを認めることが何よりも大切です。自分との違い、自分とのズレ、異質なものの、異文化、違う価値観、そういったものをすべて認めて、「みんな違ってみんないい」という思いにならなければならぬのです。光八小は、いじめ、不登校、「学級の荒れ」ゼロの学校を目指しています。

練馬区では、全小中学校の取り組みとして、昨年度はいじめ防止標語づくりを行いました。4万余の標語は、子供たち一人一人のいじめ撲滅へのメッセージでもあります。

- ・ じょうだんも 聞く子によっては つらいんだ (小2)
- ・ 見のがさない いつもとちがう あの子の顔を (小5)
- ・ 苦しいよ 分かるか君に この気持ち (中2)

子供たちの健やかな育ちを支えるため、私たち大人も、「みんな違ってみんないい」という思いをもち続け、子供の範となるようにしていきましょう。